

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!
 ☆幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!
 ☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

史料ネット News Letter

第49号 2007年5月1日(火)

発行：歴史資料ネットワーク（神戸大学文学部内）



▲第2回 地域史卒論報告会のようす（2007年3月18日撮影）

目次

巻頭言

各地「史料ネット」間の連携のひろがり

松下 正和…2

◆◆特集◆◆

第2回 地域史卒論報告会……………3

①熊野 庸一…3

②吉原 大志…4

③浅井 七恵…4

④前田 結城…5

◆◆中世市民講座◆◆

兵庫区歴史講演会

「日本国王の港～日明貿易と兵庫津」…6

兵庫区歴史講演会参加記

中野 賢治…6

2007年度 歴史資料ネットワーク

古代市民講座のご案内……………8



各地「史料ネット」間の連携のひろがり

松下 正和

47号のニュースレターでお伝えしました「各地にひろがる『予防ネット』の動き」の続編となります。繰り返しとなりますが、少し振り返ってみたいと思います。

これまでの各地の史(資)料ネットは、災害発生後に設立されるケースが大半でした。ところが、近年では、大規模災害に遭う前に資料保存のネットワーク化をはかる動きが各県で見られるようになりました。福島では昨年10月に「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」(<http://www.history-archives.fks.ed.jp/hozon/>)が結成され、メールにより文化遺産の最新情報を配信しています。また山形では、東北芸術工科大学が中心となって活動を進めており、「山形県文化遺産防災ネットワーク設立準備会」が立ち上がっています¹。岡山では、岡山大学が中心に「岡山予防ネット」の構築にむけて協議会をひらき²、高知では土佐山内家宝物資料館が「歴史資料保存相談窓口」(略称資料保存119番)を開設しています。このように文化財防災をめざす「予防ネット」活動は、各地に広がりつつあります。

そのさなか、2007年3月に能登半島地震が発生しました。この地震で被害を受けられた皆様におかれましては、謹んでお見舞い申し上げます。今回の地震では、神戸の事務局が現地より直接収集できた被害情報はそれほど多くありませんでした。むしろ、被災地近隣で組織されている「新潟歴史資料救済ネットワーク」や「福井史料ネットワーク」などのメーリングリストから得られる情報量のほうが多かったと思います。その意味でも、史料ネットが改組後打ち出してきた活動内容のうち、「大規模自然災害の際の歴史学会の史料保全活動の暫定的なセンター的役割」という部分については——これはあくまでも松下の個人的な見解ですが——再検討の余地があるのではないかと考えています。つまり、阪神・淡路大震災直後とは違い、各地での文化財防災の取り組みは格段に進展してきています。この現状をふまえるなら、「センター的」な役割を果たすよりも、各地の「史料ネット」とゆるやかに情報・技術などを相互交換しあう「ネットワーク組織」として連携する点を打ち出してはどうでしょうか(もちろん、大規模災害時に「史料ネット」を立ち上げる場合、活動希望者が皆被災者である可能性が高く、立ち上げ初期には外部の支援が必要となることが予想されます。その意味で「暫定的」と限定を付している点は承知しているつもりです)。この点については、運営委や総会場で皆様からご意見を頂戴できればと思っております。

なお、4月20日には「能登歴史資料保全ネットワーク」(代表＝田川捷一・能登文化財保護連絡協議会長、当面の連絡先＝七尾市役所・七尾市教育委員会文化財課内 電話 0767-53-8437 FAX 0767-53-5194)が発足しました。歴史資料ネットワークは、金銭的な支援を中心におこなう点を運営委員会で決定し、石川県教育委員会にもその旨通知しました。「能登歴史資料保全ネットワーク」への募金の要請があった場合には、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

¹ 豊田克史・山田英明「災害前の歴史資料保存の取り組みー「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」の設立を通じてー」、手代木美穂「災害から地域文化遺産をまもるー日常的な文化遺産保存継承・活用の中にもまれる防災活動としての試みー」(『災害と資料』第1号、2007年3月、新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野)

² 岡山史料ネット『平成17年度岡山大学学長裁量経費・地域貢献支援事業「災害など緊急時における歴史遺産の保全に関する県内自治体等との連携事業」報告書』(2006年3月)

◆◆特集◆◆

第2回 地域史卒論報告会

2007年3月18日(日)、神戸市立兵庫勤労市民センター第1・2会議室において、歴史資料ネットワークは神戸史学会と共同して、「第2回地域史卒論報告会」を開催いたしました。これは、主に兵庫県内をテーマとした卒業論文の報告会です。

歴史資料ネットワークは、阪神・淡路大震災の被災史料の救出を当初の目的に結成されました。史料を保全する取り組みを通じて、地域遺産や史料を大事にする社会そのものの構築を進めることに重点を移し活動しています。この実現のためには、市民社会のなかに、趣旨に賛同して支援してくれる人たち、サポーターを作っていく必要があると考えています。

そのために史料ネットでは市民講座などを開催し、市民と価値観の共有を進めてきましたが、同時に歴史系の大学で勉強し社会に出た学生が、社会人になってもこうした運動や調査にもう少し関わってくれたら、状況はもっと好転するのではないかと考えています。その意味で今回の卒論報告会は、まず大学生と市民社会をつなぎ、大学で学んだことを、市民に聞いてもらう場となりました。このような報告会は、非常に珍しい取組だと思われます。2回目となる今回は、大阪大学の熊野鷹一さんによる「明治前期地方行財政の展開と町村連合会—兵庫県武庫郡生津村を例に一」、神戸大学の吉原大志さんによる「神戸・新開地における興行をめぐる問題の展開」、大阪大学の浅井七恵さんによる「米騒動における神戸新聞社焼き打ち事件の原因に関する考察」の三名の卒業論文を報告いただきました。

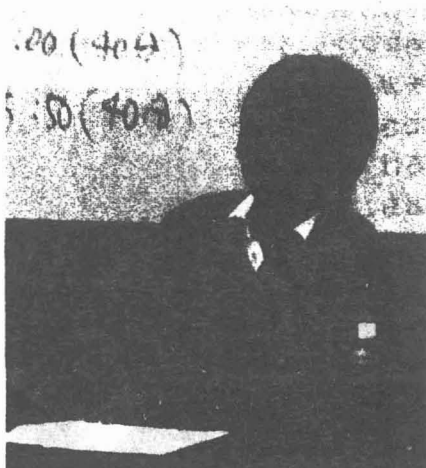
ニュースレターでは報告者3名の感想と、参加者の感想をここに掲載したいと思います。ご味読ください。

(文責：人見佐知子)

卒業論文報告会の感想文

熊野 鷹一

今回、私はこの地域史卒論報告会で自分の卒業研究を報告する機会をいただき、大変光栄に思います。当初このお話をいただいた時には大変悩みました。私の卒業研究は地域性の濃い事例研究であり、当時論文全体の整合性と論理性に大きな問題があったからです。しかし、この卒業研究報告会に向けて、多くの方々の助力とアドバイ



スをいただき、全体を再構成することができました。加えて、報告会でいただいたご

意見は、土地勘や地縁のない私にとって大変ありがたいものでした。さらに、研究を通して発見した歴史的事実を地域史研究の場で公表できたことを、私はこれから一生の思い出にしていきたいです。

(くまの・よういち／大阪大学学生)

卒論報告会に参加して

吉原 大志

今回の卒論報告会で報告させてもらった感想は、やはり緊張したということである。それはいつも大学で報告する時の緊張とは別のものであった。大学の外で報告するのが初めてであったからかもしれない、大正期における新開地の活動写真興行について扱った自分の卒論が、地元の人にどのように受け止められるのかといった不安のためかもしれない。そのため、報告資料の作成にも力が入ったが、当日はなかなか新開地に即した議論ができず、自分が本当に伝えたかったことを伝えきれなかったのではないかと現在でも反省しきりである。

やはり自分の調べたことに対する地元の人

の反応というものは、自分を緊張させてガチガチにさせるけれども、同時に「しっかりせねば」というやる気の向上にもつ



現在、私は地域史研究とは離れた場所で一般就職していますが、この卒論報告会を通して地域史研究がより精密且つ体系的なものとなることを願います。

ながるものである。4月から大学院で勉強を続ける自分にとっても、今回の卒論報告会は貴重な経験だった。

(よしはら・だいし／神戸大学学生)

卒業論文報告会の感想文

浅井 七恵



この度は卒業論文報告会に参加させていただき、どうもありがとうございました。

私自身あまり勉強熱心な方ではないので、大学外での報告というのも今まで経験したことが無く、報告前はとても緊張していました。しかし準備段階から多くの人に助けていただき、無事に終えることができました。

卒論報告会は、大学内とは違って地域の方々からもたくさんのご意見をいただくことができ、地元ならではのお話や、学問的地に限らない様々な視点からのご意見が非常に新鮮で、新たな視点を与えていた

だきました。また同じ地域や時代のテーマを研究されている方々とお話できたことも、とても楽しく勉強になりました。地元に着した卒論報告会だからこそ、報告を終えて余計に神戸の街が好きになりました。

卒業してしまうと卒論に再び向き合う機会が少なくなってしまう中、大学内の枠を越えて、このように地域の方々にも自分の研究を聞いていただけたことは、非常に貴重な体験となりました。どうもありがとうございました。

(あさい・ななえ／大阪大学学生)

第2回地域史卒論報告会の感想

前田 結城



本報告会において、私は急遽司会を務めることとなり、当初大変動揺したが、結果的には報告者の分かりやすい説明と、来聴

者の活発な発言に助けられる形となった。会全体が成功裡に終えられたことに安堵している次第である。以下、一参加者としての立場から気付いた点について述べたいと思う。

一つは、先程私は報告者の説明が分かりやすかったと述べたが、それはあくまで私が日本史学を専攻しているからであって、一般来聴者には果たして理解できたであろうか、という懸念がある。げんに、質疑応答はそれなりに活発に行われたものの、発言者には若干偏りがあったように思われる。報告者各人の卒論の質を損ねない程度に、一般市民にも理解しやすく語る、この技術は相応の研鑽がなければ体得出来ないと思う。今後の報告者には是非語り方に工夫を求めたい(※今回の報告の仕方がまずかったと言っているわけではない。悪しからず)。

そしてもう一点。該当者なしだったからなのか分からないが、やはり前近代の内容を扱った報告も聴きたかった。「地域遺産や史料を大事にする社会の構築を進める」。これが報告会の大目標だったとしたら、我々にとって実感の湧きにくい時代の地域の歴史を見事に再現した報告を市民に聴いてもらうこと、それこそが目標達成への有効な手段となるだろう。

雑駁ながら、以上が私の感想である。

(まえだ・ゆうき／神戸大学院生)

◆◇中世市民講座◇◆

兵庫区歴史講演会「日本国王の港～日明貿易と兵庫津」

兵庫区と連携し、歴史講演会「日本国王の港～日明貿易と兵庫津」を開催しました。

日時：2007年2月24日（土）14:00～16:00

場所：兵庫公会堂（兵庫区荒田町1丁目21番1号 兵庫区役所地階）

講師：藤田明良氏（天理大学国際文化学部教授）

演奏：李亜紀氏（二胡） 富田裕三子氏（ピアノ）

主催：兵庫区民まちづくり会議・歴史資料ネットワーク・兵庫区役所

協力：神戸市教育委員会

〔当日の様子〕

講演の内容をよりわかりやすくするため、最初に「国際交流と神戸の禅宗寺院」と題するスライドを上映しました。スライドでは、中世日本にさまざまなレベルの国際交流があったこと、そのなかで禅宗の僧侶や寺が重要な役割をはたしていたこと、神戸にある禅宗寺院もそのような役割を担った寺院が数多くあることなどを紹介しました。

スライド上映ののち、藤田明良氏が「日本国王の港～日明貿易と兵庫津」と題する講演を行いました。藤田氏は、日明貿易がたいへん栄えた義満期における貿易の状況とあわせて、「日本国王の港」として機能した当時の兵庫津の様子について、スライドを交えながら紹介されました。講演は、これまでクローズアップされることのなかった中世前期の兵庫津の具体像にせまった、いわば研究の最前線と呼べる興味深いもので、参加された方々も熱心に報告に聞き入っていました。

報告ののち、李亜紀氏と富田裕三子氏による演奏が行われました。美しい二胡とピアノの旋律で「夜来香（いらいしゃん）」など私たちになじみ深い曲が数曲演奏されました。こうした演奏とのコラボレーションは新しい趣向でしたが、こちらもたいへん好評で、講座は盛況裡に終わりました。
（文責：河野 未央）

兵庫区歴史講演会参加記

中野 賢治

歴史講演会の参加記、ということで、参加した感想を繰々述べてみたい。恥ずかしながら史料ネットの市民講演会には初めて参加させて頂いたのだが、当日会場に行っても、事前の申し込みだけで所定の参加人数を大きく上回り、当日の入場受付を断らねばならないという旨の貼り紙に驚いた。それほど多くの人々が関心を寄せているということである。講演は従来あまり顧みられることのなかった義満期の兵庫津に目を向け、堺・博多と比べ

た「国王の港」としての特異性を指摘するという内容であったが、その全体的な進行の方法に、これまでの市民講座で鍛えられてきた方法がいくつもみられた。

まず講演会の冒頭にスライドショーで地名などの周辺知識を共有した上で講演に臨む、という段取りである。事後の反省会で伺ったが、普通の講演会では講師が話を始めても、その内容を最初から背景まで含めて理解するのは難しい、という声があるのだという。私にもそのような経験が少なからずあるが、確かにこのように前提となる知識を前もって提示してもらえれば、内容もより深く理解しやすくなるだろうし、質疑応答もより活発に行われることになるだろう。

次に藤田氏の講演そのものについてである。内容については先ほど少し触れたが、門外漢である私にも興味深い内容であった。また氏が特に注意を払っているのが窺えたのが、たとえば銭1貫が現代の貨幣価値に換算していくらなのか置き換えたり、あるいは神戸の中世の歴史地理的な景観復元の試みを絵図で示すなど、現代の感覚にひきつけた説明を各所にちりばめていることであった。門外漢とはいえ、私も研究者の端くれである。そこに出てくる用語や事例はどこかで聞いたことがあるものが多い。しかし研究者の「常識」は必ずしも市民の「常識」と重ならない。その部分をきちんと認識し、最先端の研究成果を織り交ぜつつ、丁寧にプレゼンテーションすることでより多くの人に伝えようという姿はすばらしく、是非とも見習いたいと思った。

手法・内容ともにすばらしい講演会であったといえるが、ただ一つ、悔やまれるのは、当日折悪しくエレベーターが点検中であり、階段を使わなければ入ることのできない地下1階の会場に、車いすの方が降りる算段がなかったことである。これは私も猛省しなければならぬのだが、エレベーターがなくても、3人程度の人員を確保しておけば、階段の上り下りは充分可能である。エレベーターが動かないことに気づいたならば、すぐにそこに思いいたらなければならなかった。このために講演会に参加する機会を奪われてしまった方もおられたかもしれない。次回以降はこのようなことのないよう、積極的に動くようにしたい。



(なかの・けんじ／史料ネット運営委員)

史料ネット NEWS LETTER No.49 2007年5月1日発行

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学文学部内 史料ネット

TEL&FAX:078-803-5565 (開室時間 平日の午後1時～5時)

URL:<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/> e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp

古代西摂の風土と 人々の生活

新尼崎市史『図説 尼崎の歴史 上巻』を読む

新しい尼崎市史がカラー豊富な『図説』スタイルで刊行されました。

この本には、さまざまな地域の歴史的な遺産を活用した研究の成果が反映されています。

『図説』に収録された資史料を通して、西摂地域の古代史を読み解いてみたいと思います。

■ 日時：2007年 5月 20日（日）13:30～16:00

■ 会場：尼崎市立中央公民館視聴覚室

■ 講演：高橋明裕氏（立命館大学）

「古代西摂の風土と人々の生活

—新尼崎市史『図説尼崎の歴史上巻』を読む—

■ 参加申し込み方法：下記史料ネット宛に住所・氏名・連絡先を明記の上ご連絡ください

■ 主催：歴史資料ネットワーク



【お申し込み先】

歴史資料ネットワーク(略称史料ネット)



〒657-8501

神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部気付

TEL&FAX:078-803-5565 (開室時間 平日午後1時～5時)

e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp

URL:<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/>